

社会科におけるエネルギー環境教育

研究の概要

- 地球温暖化が深刻な問題となり、世界的に脱炭素・カーボンニュートラルへの取り組みが求められています。しかし、国家間、地域間、共同体間などにおける意見の相違によって、取り組みはなかなか進んでおりません。こういった現状から、脱炭素・カーボンニュートラルの実現を目指すためには、新たな再エネ技術を導入するといった科学的なアプローチだけではなく、話し合いを通じた他者理解や合意形成といった、社会的なアプローチが重要となってきます。社会科においてどのような授業を構築することで、脱炭素・カーボンニュートラルに向けた他者理解や合意形成が図られるのか研究を進めています。
- 脱炭素・カーボンニュートラルといった概念は、複雑で理解しづらいものです。このような概念を児童・生徒が具体的に捉えることができる方法についても研究を進めています。この研究の一環として、「伊勢市環境フェア」にゼミで出展し、地域の方々に脱炭素・カーボンニュートラルについて考えていただく取り組みにも参加しています。
- 総合的な学習（探究）の時間において、脱炭素・カーボンニュートラルをどのように位置付けていくか、ということについても研究を進めています。



キーワード



- 社会科・総合的な学習（探究）の時間
- エネルギー環境教育
- 脱炭素・カーボンニュートラル

連携アピール



- 脱炭素・カーボンニュートラルなどについて、児童・生徒と共に考える出前授業の開催。
- 脱炭素・カーボンニュートラルを位置付けた社会科や総合的な学習（探究）の時間についての単元開発・授業開発・共同研究など。

研究者



萩原 浩司

HAGIWARA Koji

准教授

教育学部 教育学科

